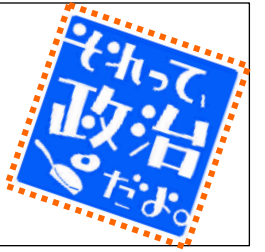




# 小室たかえの議会報告

平成29年(2017年)第1回定例会 2月15日~3月24日

<http://www.komuro.kanagawanet.jp/>



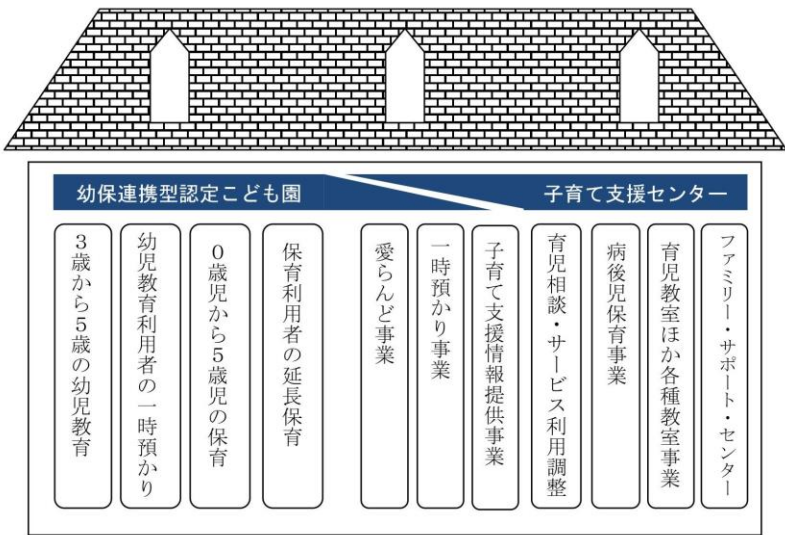
## 子ども・子育て支援 今年度は、どうなるの？

### 子ども園建設

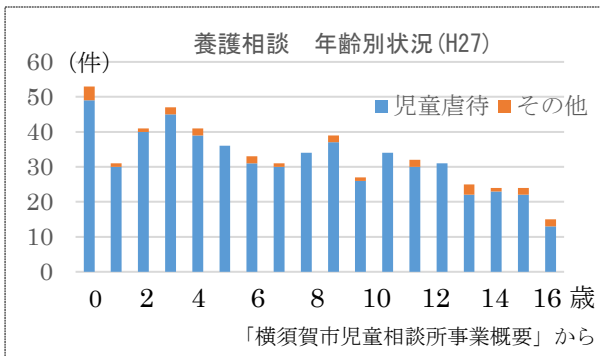
#### 市長の意気込み感じられず

子ども園建設についての市長答弁は、「認定子ども園は、就学前の子どもにも幼児教育・保育を提供するだけでなく、子育て支援センターといった地域における子育て支援の機能と一体的な施設となります。公立子ども園の整備については、厳しい財政状況であっても、未来への投資と考え、全ての子育てする市民が利用する拠点として、拡充した内容で整備を進めていかななくてはならないと考えています。」というものでした。

幼保連携型認定子ども園と子育て支援センターの機能を合わせた施設のイメージ



「横須賀市保育園再編実施計画」から



### 愛らんどへのアドバイザー配置を!

子育て支援センターの拡充については、必要性も高く、すぐにでもできると考えます。現在、子育て支援センターは「愛らんどよこすか」「愛らんど追浜」の2か所です。子育てアドバイザーが配置されています。利用対象は未就園児と保護者で、ママ友づくり、情報交換、アドバイザーへの相談などができる施設です。後を絶たない児童虐待は、核家族化、コミュニティの希薄化による孤立が原因です。子育て中の方が気軽に利用できる子育て支援センターについて、数・質ともにスピード感をもって整えていく必要があります。そのために、健康福祉センター内にある愛らんど(北、ウエルシティ、南、西の4か所)にも子育てアドバイザーを配置して、子育て支援センターとするべきです。

### 保育が変わる!

#### 幼保連携型認定子ども園 教育・保育要領の 目指すもの

認定子ども園計画は、公立保育園再編計画の中に位置付けられています。市ではこれと並行して、「公立幼保連携型認定子ども園教育・保育課程検討プロジェクト」を設置、教育・保育要領にある「環境を通して行う教育及び保育」をいかに実現するか、研究を重ねています。子どもの自ら育つ力を育むために、それを助ける環境を整えます。具体的には、園庭を見直します。子どもの好奇心を満たす園庭と、そこでの自由な遊びをできる限り保証します。保育士は、基本的には、危険が無ないように見守ります。先進事例を知るべく、西池袋そらいろ保育園(写真)での研修に参加しました。保育園(写真)での研修に参加しました。

### 園庭が変わる!



園庭が、職員とも保護者とも話し合いを重ねて築き上げた園庭は、日々の保育の中で進化を続けていることでした。「園庭長」という立場の保育士がいるのも特徴で、子どもの育つ環境としての園庭をいかに大切に考えているかがわかります。立保育園では園庭の整備を進めています。

子育て世代の転入促進には、保育園での保育内容も大きなアピールポイントとなると考えます。子育ての社会化を進めるためにも、「保育が変わる」ことを多くの市民と共有するためのイベントなどを仕掛けるのも有効だと考え、本会議で提案しました。今年度は予算化していないため実施は困難との答弁でした。子ども園建設への意気込みの無さという、この答弁といい、子どものための政策に対する優先度をもっと上げるべきと考えます。

### 保育士は、足りているか?

#### 認可保育園の定員は 99人増えたけど

市内の認可保育園の定員は、今年度99人増えましたが、待機は0ではありません。0を目指すとのことですが、効果的な方策が見えません。定員を増やせばその分の保育士も必要になります。保育士不足の今、独自の優遇制度を打ち出している自治体もあり、保育士の確保を国の処遇改善だけに頼っているのは「横須賀で働きたい」動機付けになりません。待機児童解消にも子育て世代の誘致にも関わることから、保育士確保は積極的に取り組む必要があると考えます。

### 「放課後子ども教室」 試行

#### わいわいスクールは なし崩しの閉鎖の一方で

「放課後子ども教室」は、市の仕様書によると、設置校の児童を対象、放課後の午後2時から4時30分、宿題や読書を中心とした活動を行うとするものです。スタッフは小学校か中学校の教員免許が条件です。今年度、小学校1校で試行されます。一方、放課後事業3本柱の一つとして行う「わいわいスクール」は3か所を廃止しています。わいわいスクールの利用者、運営事業者の声を聞き取り総括を行い、新たな事業に生かすべきです。どの子にも安心安全な放課後の居場所を整えることが、求められています。



ぜひ、傍聴を!